

# 世界ブランド「フードバレーとがち」と ひがし北海道広域周遊のゲートウェイ



十勝の魅力を発信するショーケース



商業エリア

観光コンシェルジュの設置



到着ロビー

ビジネスジェット格納庫・  
エプロン(新設)

駐車場の拡充

歩道ルーフの設置

国際線旅客ビル施設増築

立体駐車場(新設)

カーブサイドの再編  
(公共交通と一般車両の動線を分離)

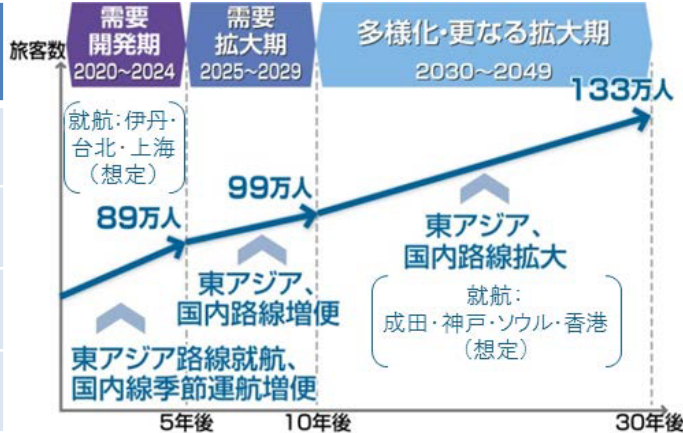
帯広空港の  
30年後の将来イメージ

## ■ 帯広空港の目標値

	2017年度	2024年度 (5年後)	2049年度 (30年後)
旅客数	67万人	89万人	133万人
国内線	67万人	79万人	113万人
国際線	0万人	10万人	21万人
貨物量	23百トン	27百トン	32百トン

(※四捨五入により合計が合わない場合がある)

## ■ 帯広空港の成長ステップ



## ■ 帯広空港の航空ネットワーク(30年後の想定)



(※現在の就航路線は季節運航便を除く)

## 航空ネットワークの充実

- (国内線)羽田路線・中部路線の拡充、伊丹路線等の誘致
- (国際線)東アジア主要都市からの定期路線の誘致
- 地域一体での十勝産品の移出・輸出促進
- 旅客数連動の着陸料やターゲットに応じた割引・インセンティブの導入

## 地域との連携・地域共生

- 騒音監視や情報公開等、周辺住民の生活環境への配慮
- 地元大学等と連携、交流を通じた地域活性化

## 十勝地域の魅力向上・広域観光振興

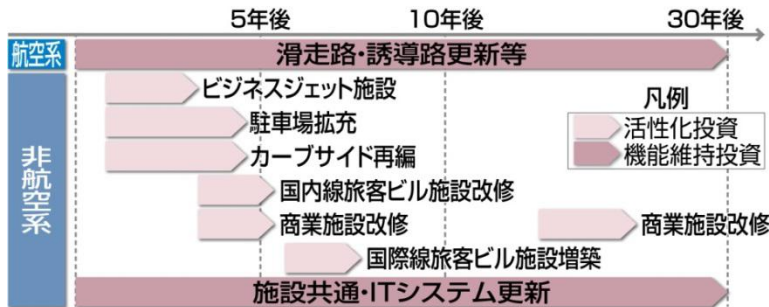
- 十勝の食資源と温泉・自然を組み合わせたガストロノミー推進
- 行政・DMO等地域の関係者との一体的な取組体制の構築
- 旭川・富良野・美瑛方面や、ひがし北海道全域との周遊観光の促進



## 空港施設運用

### ■ 設備投資戦略(30年間の投資総額(想定)約178億円)

- 運営開始当初は駐車場等の改善や商業・観光拠点としての魅力向上を優先
- 既存旅客ビルを活用しつつ、国際線需要の拡大に合わせて受入機能強化



### ■ 駐車場・カーブサイドの利便性向上

- 立体駐車場(①)、歩道ルーフ(③)の設置等による利便性向上
- 駐車場拡張(②)による駐車台数の確保
- サービスレベルに応じた駐車料金の設定(無料駐車区域を確保)
- カーブサイド再編(③)による利便性・安全性の向上

### ■ ビジネスジェット専用施設の整備

- ビジネスジェット専用の格納庫・エプロン整備(⑦)による十勝地域への富裕層の誘致、北海道全域へのビジネスジェット需要促進

### ■ 需要拡大に対応する施設整備

- 旅客ビル施設内部改修による利便性・魅力向上(④)
- 国際航空需要の拡大を見据えた国際線受入施設の増築(⑤)による国際線出発・到着便の同時対応
- 貨物ビル施設の温度管理設備新設(⑥)による地元産品の移出・輸出促進

＜30年後の施設等配置図(案)＞

